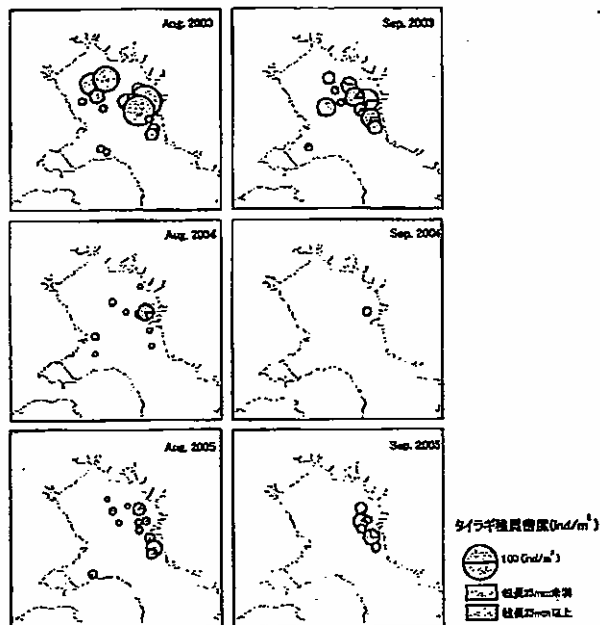


出典：西海区水研資料

注) 左図：タイラギ浮遊幼生の殻長サイズ別分布、右上図：2003～2005年の8月におけるタイラギ浮遊幼生の平均密度の比較、右下図：2003～2005年の8月におけるその他二枚貝類浮遊幼生の平均密度の比較

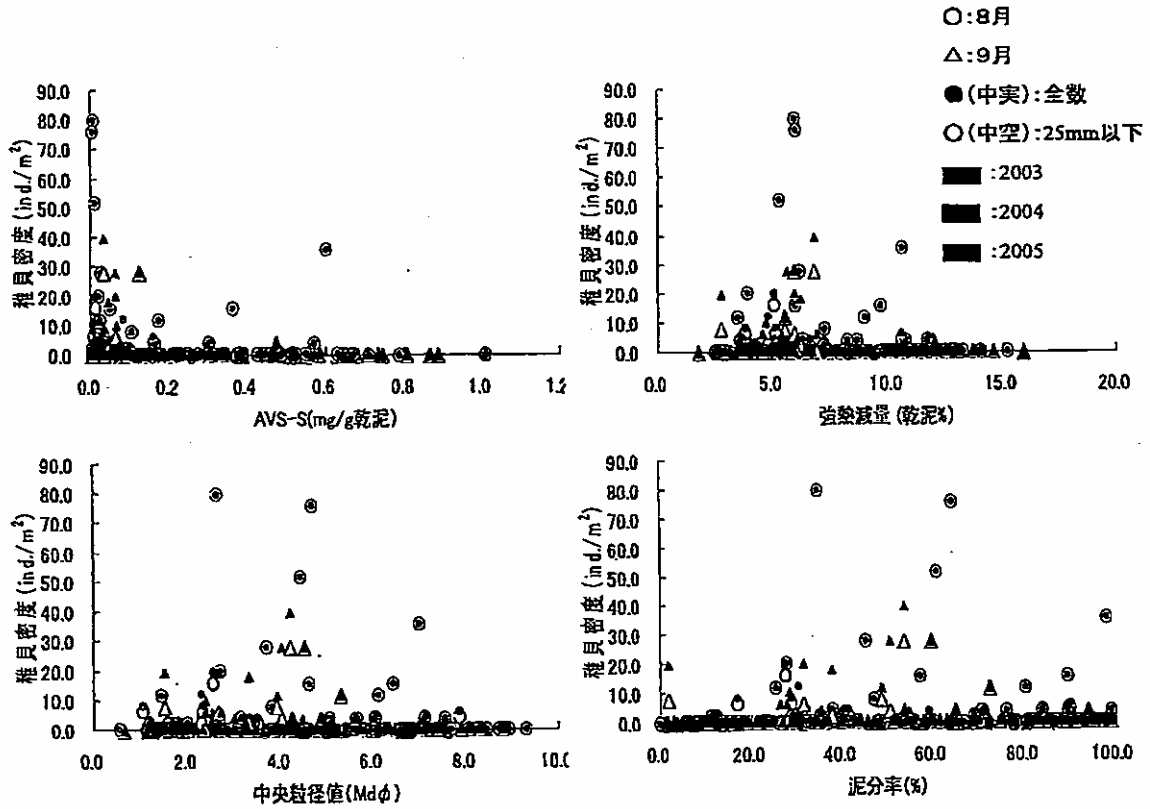
図 2.3 タイラギ浮遊幼生の分布 (2005 年) 及び平均密度 (2003～2005 年)



出典：西海区水研資料

注) 上から順に 2003、2004、2005 年、8 月 (左)、9 月 (右)

図 2.4 タイラギ稚貝密度の分布



出典：西海区水研資料

注) 中空および中実シンボルの離れている調査点は、稚貝の生残が比較的良好な場所を示す。

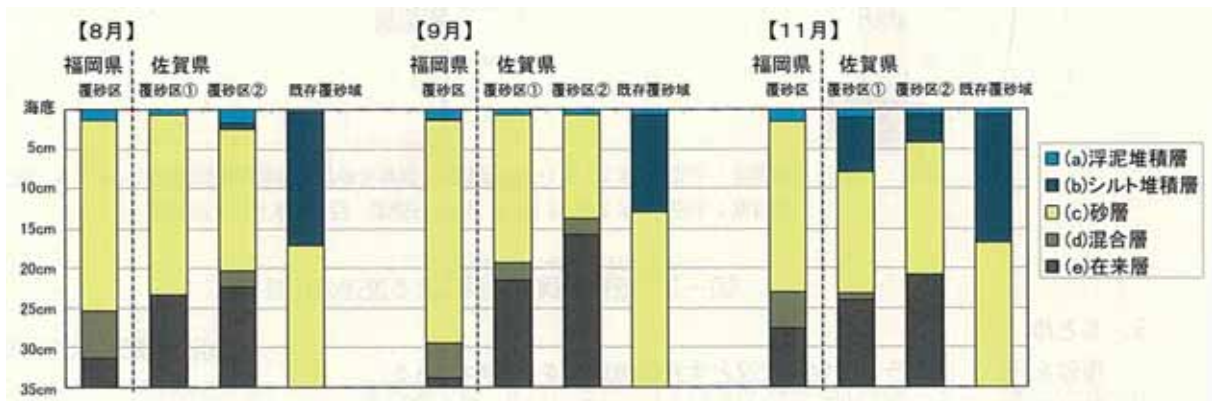
図 2.5 底質環境のパラメーター (AVS-S、強熱減量、中央粒径値、泥分率) と稚貝密度の関係

表 2.1 タイラギの生息密度

項目	海域 区域	福岡県		佐賀県			
		覆砂区 (砂)	対照区 (覆砂なし)	覆砂区① (砂)	覆砂区② (貝殻混合砂)	対照区① (覆砂なし)	対照区② (既存覆砂域)
調査測点数		12	3	6	6	3	3
タイラギ 個体数 (/0.5 m ²)	8月	1~29 (16)	0	9~46 (24)	21~55 (36)	0	0~1 (<1)
	9月	2~19 (9)	2~4 (3)	0~4 (1)	1~5 (3)	0	0
	11月	2~13 (8)	2 (2)	0	0~1 (<1)	0	0

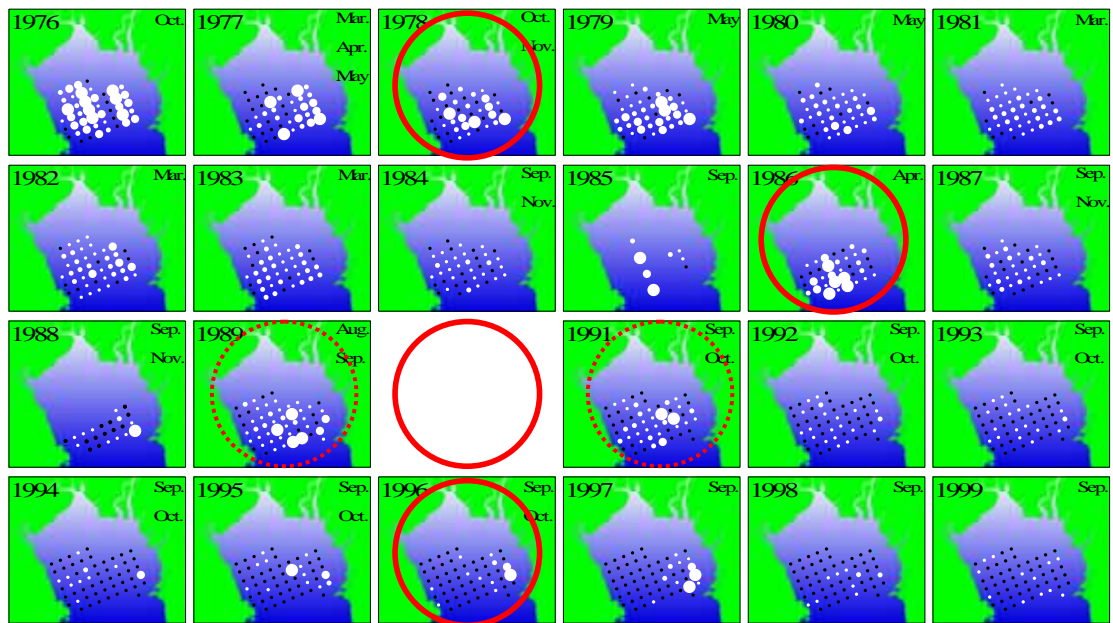
注) () 内は区域別平均値。

出典：「第 20 回有明海・八代海総合調査評価委員会」資料-5 有明海改善のための実証試験について”



出典：「第20回有明海・八代海総合調査評価委員会」資料-5 有明海改善のための実証試験について”

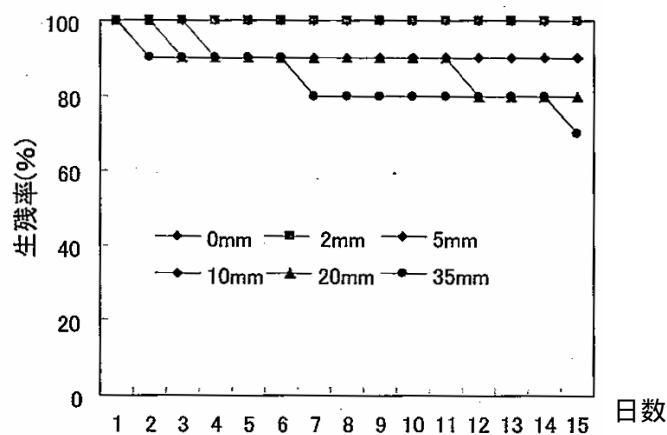
図 2.6 覆砂域における底質の層厚（区域別平均）



○ 100ind / 100m² ◦ < 100 ◦ < 50 ◦ < 10 • = 0

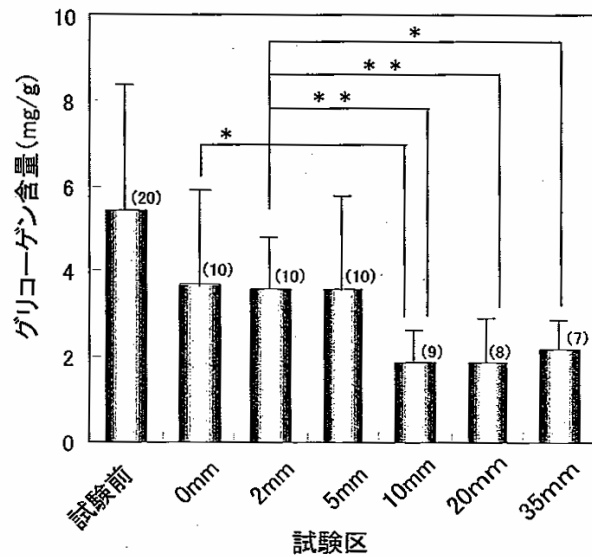
資料：第15回有明海・八代海総合調査評価委員会「資料-3 有明海における二枚貝について」(伊藤委員発表資料)

図 2.7 タイラの生息量と有明海北西部海域の中央粒径値 (Md) との関係



出典：研究成果第432集「有明海の海洋環境の変化が生物生産に及ぼす影響の解明」(平成17年3月), pp.90-96

図 2.8 泥を堆積させて飼育したタイラの生残率

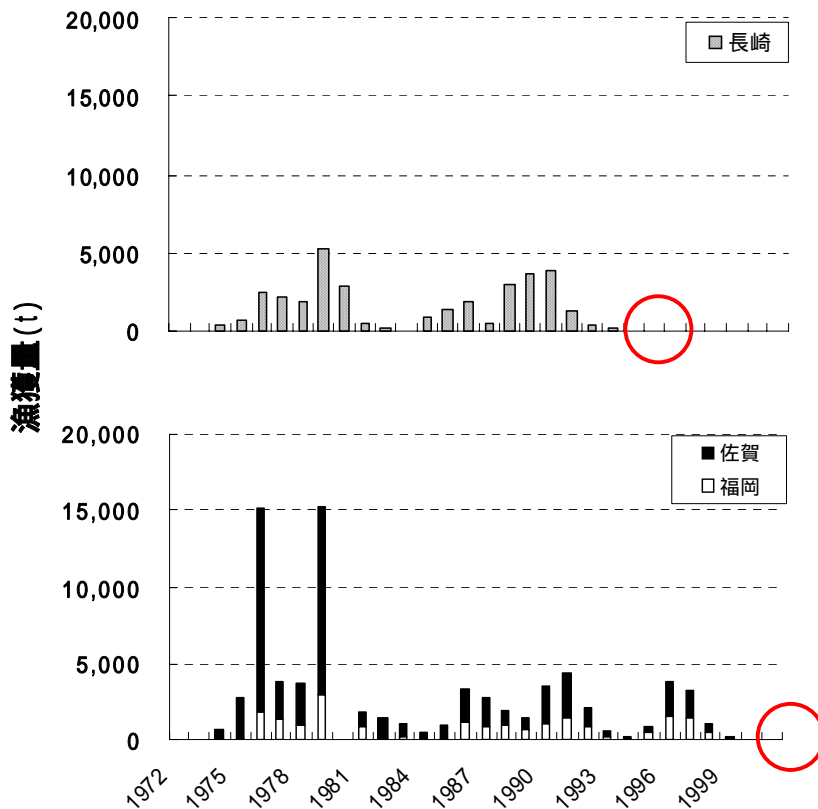


出典：研究成果第 432 集「有明海の海洋環境の変化が生物生産に及ぼす影響の解明」（平成 17 年 3 月），pp.90-96

注 1) 平均値 ± 標準偏差、() 内は分析個体数

注 2) **: P < 0.01、*: P < 0.05

図 2.9 泥を堆積させて飼育したタイラギの閉殻筋グリコーゲン含量の変化



出典：「第 15 回有明海・八代海総合調査評価委員会」資料-3 有明海における二枚貝について [伊藤委員発表資料]

図 2.10 有明海における県別のタイラギ漁獲量の推移